

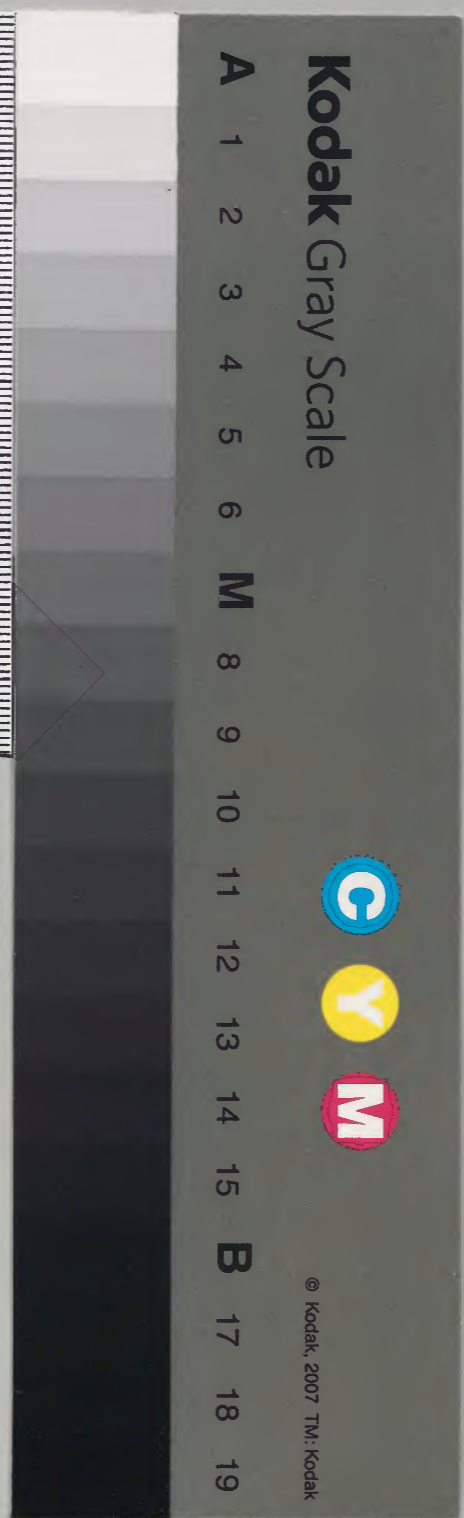
藩翰譜續編

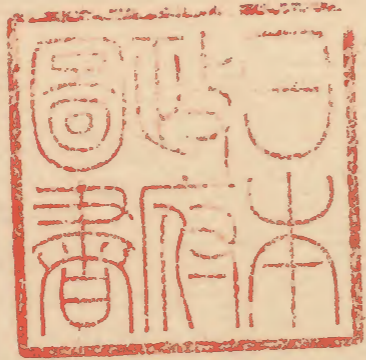
三

和書門類			
三八冊	一九函	八九四號	

內閣文庫			
三五函	三七冊	八九四號	和書類

內閣文庫	
番號	和 8994
冊數	37 (20)
函號	155 59





藩翰譜續編卷之三

水野

美作守勝種
肥前守忠伍

隼人正忠直
右衛門左忠春

松平
松久

附 佐渡守康尚
附 主計頭定章
駿河守定陣

隱岐守定直
越中守定重
大藏左輔勝以

増山

兵部左輔利順

松平
鷹司

越前守信清

水庄

寓女補道章
松平因幡守宗資

附
松平内膳正宗長

水野

源忠政

忠守

忠元

忠善

忠重

勝成

勝俊

勝負

女子二人 勸修寺翁言經廣心主
一人早世

勝種 氏部
初勝菱

美作寺三十五位下
延享三年十一月廿六日叙任
元禄三年十一月廿三日卒
七文
法名万輝院忠藏全功

勝岑 右之丞

元禄五年九月廿五日卒
法名庸德院大舍子中

勝長 教馬

德松寺三十五位下
隱岐寺三十五位下
元禄五年十一月廿五日叙任
法名待院智順一男

勝岑 右近 左兵衛

元禄五年九月廿五日卒
今水野若狭守忠通祖

勝政 内膳

勝長養子

勝忠

勝直 教馬

備前寺三十五位下
延享三年十一月廿六日叙任
元禄三年十一月廿三日卒
今水野若狭守勝差祖

勝彦 主殿

備前寺三十五位下
真保寺三十五位下
元禄五年十一月廿五日叙任
廿文

忠明 孫太夫

水野若狭守改養子

勝改 内膳

实備郎并勝直三男
其津守三十五位下
元禄五年十一月廿六日叙任
日向寺
元禄五年十一月廿六日叙任
延享三年七月廿五日卒
法名野院清道通聖

女子七人

奮原在野寺持清室
植村早世
生駒主膳親直室
松平阿守直好室
離別

勝庸 獨三郎 左衛門

下野寺三十五位下
享保九年十一月十八日叙任
元禄五年十一月廿六日叙任
宣统三年十一月廿三日卒
法名隆慶院天雲慈恩

勝前 市藏

实勝改三男
日向寺三十五位下
宣统三年十一月廿六日叙任
法名圓徳院修智護

勝前 市藏

勝珍 兼三郎
延享九年十一月廿六日卒

女子

實植打佐守血朝女
林肥後守忠篤妻

勝起

鍋五郎 六左衛門

下野守佐五位下
實曆三年十一月十八日叙任
同十三年四月廿日啓向守
天明三年四月廿日卒三十九
法名得徳院仁雄英智

勝盈

市藏 谷次郎

勝房

金三郎

甘奈左衛門曰盈養子

勝剛

鷹之丞藤十郎

實中修理左衛門三男
後五位下日向守
天明三年十月十八日叙任

女子二人

忠清

忠職

女子二人

土屋左兵衛啓直室
龜井能登守長幸離別
嫁土屋但馬守陣盈

忠直

鍋之助

忠直補佐五位下
實文三年十一月廿八日叙任
後改作仁心
正德三年十月廿八日卒
法名得徳院大善道主全徳

女子

竹嫁片桐長十郎自明是

忠周

松尾衛

出羽守佐五位下
自享四年十一月廿九日叙任
元祿四年六月廿日改忠實補
正德三年六月廿日改出羽守
其傳年十月廿日卒
法名得徳院清香淨祐光阿

忠富

刑部

水野長門守忠顯養子

女子二人

石川上野守勝之室
小室厚殿同守信辰室

忠房

内藏之丞

肥前守忠住養子

忠照

富

今水野守之助忠冠祖

忠幹

松尾衛

日向守佐五位下
正德三年十一月廿一日叙任
其傳年十月廿日卒
法名得徳院仁善仁光

忠恒

為子代

女子

竹嫁米倉丹後守保武是

種春 民部

因藤權衛門雅元養子

女子

板倉出雲守重信室

忠賢 十兵衛

水野刑部忠富養子

忠恭 壹之助

鍋島内匠長行養子

元陣 増之助

水野右進元朝養子

忠毅 初忠年忠永

從隼人心忠通

出羽守後五位下
元文元年十一月十六日叙任
實任三年八月廿四年辛

忠恒 為子代主計修理
實忠内匠男
隼人心後五位下
享保八年十一月十八日叙任
四年七月廿一日依狂疾叙
所領
元文四年六月十八日卒三十九
九
法名慈雲院慈養休道律師

六文
法名慈雲院慈養休道律師
女子
小笠原敦有長輝妻
副忠 内記
鍋島内匠長行養子

忠友 卯之助 按察所

典後守後五位下
延享四年十一月十九日叙任
明和六年八月廿七日改出羽守
安永六年四月廿七日改四位下
天明元年十一月廿五日侍從

女子三人

忠徳 金次

實田右主殿久意次男

中務左衛門後五位下
安永四年十一月十一日叙任
天明元年九月廿五日侍

女子
青出左衛門亮元室

女子

中根正水正正相妻
水野勝五郎忠隣妻
牧野傳藏成如妻

某 富五郎 早世

忠福 官次郎
松平德郎信交卷子

忠増 長吉權筆所周防守後五位下明曆三年壬午七月廿七日叙任
元禄七年七月六日卒七十七 法名寛介院徳譽性運

某 權吉 早世

女子 忠之室

女子六人
松平美濃守勝房室
一人早世
内田羽守正昌室
二人早世
酒井飛騨守忠香室

某 長之助

女子 早世

忠房 三之丞内藏元
初忠休

實集人忠道三男
周防守後五位下
心徳元年九月廿一日叙任
四年正月六日卒廿八
法名松巖院吟譽雪天

忠定 吉之助 伊織

實松平越前守定重九男
宣政守後五位下
心徳三年壬午十月廿一日叙任
寛永九年六月廿六日卒五
十 法名圓院鏡譽若人宗光

忠寛 權筆所

進江守後五位下
元文三年壬午六月廿一日叙任
寛保元年七月廿六日卒廿
法名寂靜院交譽其心無着

忠廉 織之助

女子四人
實松平主計次定章女
也實至也寛平後忠云養
傳開織也雄
行別花房左衛門三倫早世
水野巨舟老高妻
内藤城五郎正與妻

忠見 吉次郎

肥前守後五位下
延享元年丙午春叙任及
改書政守
安永四年八月九日卒四十六
法名信院水譽常自寂港

忠伍 左近 宮内
初忠明忠房

肥前守後五位下
寛文九年壬午五月廿一日叙任
正徳三年七月十九日卒九十
九 法名雲院潤譽香法

女子二人

一人早世
塞南傳守衛宗俊女
柴田云河陽田妻

女子

早世

忠康 織之助

實忠 磨婿男

肥前守位下

寶曆七年十一月廿日叙任

貞和四年九月廿七日

法皇即位院敷卷心先重南

女子二人

加藤左渡守明輝室
内田伊勢守正純室

忠韶 尚三郎

初可

從五位下壹岐守
安永年十一月十六日叙任

正信 市十郎主行專助

杉浦出雲守正勝養子

忠晋 鶴吉 左兵衛

水野内守忠敬養子

忠厚 辰藏

女子

女子

京極飛騨守高仲室
松平和泉守榮之室

忠春 権五郎

初元春

右衛門少将位下

忠直 権五郎

延宝四年二月十日卒

忠盈 久米之丞 織部

典前守位下

忠之 貞言 水求馬

塞南傳四男

兼應三年十月廿八日叙任
元祿五年十月廿五日卒
三女
法名通實院本元宗慧

女子三人

丹波式部兵衛氏純幸
水野信濃守元知幸
斤桐主勝心自房幸

某

源年次

承心五年七月廿日卒

女子

牧野遠江守康道室離別

某

造酒之助

萬曆二年十月廿八日卒

延寶五年十二月廿八日叙任
元祿十二年十月廿日卒
法名實院鐵船道駕

某

政之助

寶文五年八月廿七日卒

女子二人

共早世

忠之

源宮

女子

早世

某

内通

延寶五年十月十八日卒

春隆

典次郎外記

水野佐守豐上蒼子後婦
享保五年九月廿日卒

初水野清吉忠近蒼子
大監物後五位下
元祿十二年十月十八日叙任
後改和泉守
正德二年九月廿日叙任
侍從

享保五年七月廿日叙任号
祥山
同十六年三月十八日卒
三女

法名高隆院祥岳元室

女子

早世

女子

早世

某

源宮

元祿三年正月廿四日卒

女子

京極加賀守高梁室

忠輝

清吉鐵尸
初忠篤

右衛門次後五位下
寶永三年十月十九日叙任
正德三年四月廿三日改右衛門
正德三年九月廿三日改監物
元文三年七月二日卒四十七
法名初德院松山長輝

女子

某

清次郎

元祿五年四月廿七日卒

女子

早世

女子

忠辰

鐵尸
初忠攸

大監物後五位下
元文三年十月十六日叙任
寶曆三年三月廿三日叙任
同年十月廿日卒三十一歲
法名貽院圓寬維鏡

忠剛

助三郎 兵庫

寶曆四年三月十日卒

忠觀

又四郎 玄蕃

延寶三年十月廿日卒廿歲

女子二人

忠任

長十郎

實水野平十郎等滿二男
後五位下鐵尸
寶曆五年十月廿八日叙任
元文三年九月九日改和泉守
安永四年九月廿二日叙任

女子

忠任室

女子二人

忠任養女
并嫁本多末助忠童早世

忠雄

源之丞

早世

一人早世
阿部能登守三敏至

忠昂 式部

实松平世馬守宗直三男
後位下左衛門督監
明和四年十月十九日叙任

女子二人

实忠辰女
忠昂室
一人早世

某 恒次郎 是

忠光 徹之助

式部兼藤原下
天明三年十月十八日叙任

女子

水野山城守自利室離別
嫁片桐至膳三直影

某 余次郎
安永元年四月卒

某 為三郎
安永元年月日卒

忠令 安次郎

女子

某 直松

女子二人

某 采三郎

某 正之助

女子

某 豊三郎

水野

美水書源勝種（後）日向勝身（前）子好（後）安文
 三年二月三日父の遺願を承けしり（後）玉福山（前）の
 公十九日卯（前）と申す日なり定家三年十月
 叙身一（後）元禄十年乃秋三十七歳（前）して年久しの子
 松重勝（後）といふは源頼朝のうらまひなりと云
 法をせらるるにありてある年の三月卯（前）と申す日
 と云ふ事一（後）下うせり此のち後々傳せり
 五郎の地よりある事一（後）なり此のち後々傳せり
 重なるるをかりしり（前）一（後）つ録傳書勝種（後）
 長勝（前）

中川純理を源又貞の二宮友十年御別を所少ひく子
 と人勝別之日より御侍下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り

年人正源本中を忠誠の場より信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り
 信下り信下り信下り信下り信下り信下り信下り

三〇二月十日... 忠誠の場より信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り
 忠誠の場より信下り信下り信下り信下り信下り

家之親家 忠恒に承けし事 享保二年 吉日辰巳信下の年入

正に叙任を蒙り十年十月廿日忠恒の御下

申りて御下を承けし事 享保二年

之に於て御下を承けし事 享保二年

一口申りて御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

御下を承けし事 享保二年

た坂の城の事ありあはるゝかの地くうせむ 分母七 号三

無事伝忠友いふれりうすし後田原のりきくみちの

せらと流父の流傳をうら貴保子のりせり

叙系して豊後をけり宝曆八のろ京世伝者ひく

準せしとれりうすうふあかこて十年百助の創者

うり半平如体くう創せしりい信守して山本三の母

女谷早田保と京師のあり奉之の事と書せり

正徳らうられぬいひの十月廿少光の殿をり

地とらうらる 宝曆 海へ流す事りあり

武周の事とくをけり 武周 山本 武周 の事 武周 の事

年の八月廿羽をり 武周 安永廿十月廿廿日

うら後に信下り叙し 武周 てもくうらりて体

りらる 武周 昔う 武周 武周の地と久

りりれ 武周 武周の事とく 武周 武周

を 武周 叙の事とく 武周 武周

客 武周 準せられて又加急の地り 武周

武周の事とく 武周 武周

武周 武周 武周

ら 武周 武周

世房のふせ房の事
中條此世も房を
とゆえに此の所
ありける

たけりて卒年九月二十日の子ま後宮忠定は遺族
ゆりの忠定宮は松平越中守定重の九子より成り
いひりれりてその忠位留より人なりし可き事と
ありて一孫年人正忠考之宮田親光忠房御子
忠房を永正十年十月朔よりかきしりて
しそ月朔よりありては又よはらひの事なり
この忠定をありて忠定正徳二十七年御より
御孫しその名叙身一室侍より兼の同の御孫
御中守保正の六子の御孫なりしは八月三日
より少少ありありしは十月十八日御の地を
世せり
世房と忠房の事
ありてゆりし ありき 永正十年十月朔より

う川り地くらくられは 忠定二十二年ある今の信水
宰相成せしむせゆりし時よりあるゆりて
百次御殿より十次御殿にせ宮家させりし時御殿
いせのひ髪をとりせりし時ゆりし御殿より忠定
元年より長治八年よりし卒年をよめる 持後
忠定元文元年の九月十日の初見の形をりし御殿の
乃を信下守信の御殿より 忠定二十二年を
とるしりしは二男去次守忠見御殿より御殿
ナシの御殿より 忠定元正十次御殿下 托前より御殿
後より後より 父卒せし時の八月ある遺族とゆりし御殿の
乃林六若のひりし 忠定二十二年ある御殿の事と

元禄九年丙寅年七月廿四日
法名玄林院教分全入

寛永四年壬午四月廿七日
九文
法名小園院道基寛翁

康郷

良重 主水

女子

松平羽守綱貴室

定貞 少将

松平左大夫定卓養子

某 園石門

女子二人

植村大膳政行妻
酒井数馬忠悳妻

康俊 源三郎
初勝俊

寛永三年三月賜御家号
即傳字
天字四年四月三日奉
廿文
法名善聖院泉内澄清

勝政 恒三郎

实小野藤次郎忠久男
典前守位五位下
慶長八年三月叙任
寛永十年六月十日奉
廿文
法名行院休室道能

勝義 恒三郎

因階守五位下
寛永九年十一月廿八日叙任
同上
寛永十年九月廿九日叙任
寛永十一年十一月十七日奉
十九文
法名英雄院山道確

女子

松平与一即忠政室忠政奉
嫁松平与次郎忠吉位過保
科厚忠三直

女子二人

松平玄蕃及家清室
松平丹波守康長室

女子

勝政室

女子二人

紀伊家人
么野丹波守宗成妻
宮城三膳忠典嗣妻

勝就 恒三郎

棋律守位五位下
万治元年辛酉七月廿七日叙任
後改備中守
寛文九年七月廿六日奉
八文
法名法運院雄山泉英

某

市太郎

早世

勝易 兵部 半左衛門

典前守位五位下

寛文十一年十月廿八日叙任
延保二年正月廿四日卒
法名慈明院梅室道雨

女子二人

其勝説女
則成有清富妻
神尾若清之清妻

知我 平三郎
土屋忠衛友貞養子

女子

固野有内忠典妻

勝光 少左門 織入
今松織入勝秀祖

勝直 市郎右門
元禄至貞四平世嗣
家絶

勝忠 平十郎
今松至徳郎勝方祖

女子

篠宮有内資内事

女子

東本願寺家司
栗津右近元隔妻

勝秀 七之助 字右門
元禄三年三月廿日卒

清真 源之助
本村至右内清治養子

勝以 権三助

女子

大藏痛勝以養女

勝久 権十郎 字右門
享保十一年十月廿六日卒

某 少次郎 早世

某 権太郎 早世

女子

松田徳四郎 妻離別

勝子 権十郎

勝以 權之助 平左門

實勝 義九男
甲斐守 信五 位下
延享四年 正月 十六日 叙任
元禄五年 七月 廿三日 改任
享保十三年 二月 十四日 卒 六十

勝房 恒三郎

美濃守 信五 位下
享保九年 正月 十八日 叙任
元禄五年 正月 十六日 叙任
延享三年 正月 晦日 卒
法信 德元 院 隨 嚴 道 音
女子 二人
實梅 國 幸 相 久 季 之 女
神保 左 近 交 清 妻
實子 在 門 勝 秀 女
水野 勝 高 郎 巨 勝 妻

勝平 權七郎 恒三郎

實平 在 門 勝 之 男
延享四年 正月 十六日 叙任
元禄五年 正月 十六日 叙任
享保十三年 二月 十四日 卒
明和五年 三月 廿九日 卒 六十
法信 德元 院 隨 嚴 道 音

女子

本高 膳 直 無 室

勝全 恒三郎

勝從 恒三郎

早世

勝外 辰次郎

平方 權之助

久松 安 在 所

正方 万吉

村三 守 郎 已 親 養 子

某 龜吉 早世

全好 帶之助

女子 三人

一人 早世
安藤 帶 力 政 歌 妻
孫 塚 甚 左 衛 門 安 盛 妻

信門 喜左衛門

館同 公 五 郎 時 信 養 子

定勝

定行

定頼

定長

定直

鍋之助 万之助

実美作守之時長子
治路守位五位下
延寶三年十一月廿七日叙任
同治三年四月廿日改隱
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
法名竟院歡喜喜廣

定仲

万之助

元禄四年十月廿年

某

鍋之助

元禄四年十月廿年

定英

百助 刑部主膳

曉野守位五位下
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
法名樂院葵春身勝盛

定喬

百助

山城守位五位下
享保五年十一月廿日叙任
後改隱
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
享保五年十一月廿日叙任
法名顯德院順春和光慈觀

定功

直次郎

女子

水野遠江守忠寛室

定静

源之助 監物

定章

辰之丞 源之助
監物

純宗家

女子二人

松平左門之秀妻
溝口厚正直寛妻

定紀

内記

宝曆五年五月廿日卒

女子二人

共早世

某

源之助

宝曆五年内廿五日卒

某

能太郎

定國

典丸

実田守中納言武光六男
從四位下中納言大浦
享保五年十一月廿日叙任
同治三年四月改隱以守

定功 直次郎

実隠以守之英二男
隱以守位五位下
享保五年十一月廿日叙任
同治三年四月改隱以守

定静

源之助 監物

実主計以守之長男
備中守位五位下
享保五年十一月廿日叙任
同治三年四月改隱以守

女子

実京極内西高令女
何部伊勢守昌徳室

某

善三郎

寛六年五月廿年

女子

備中守位五位下
享保六年十一月廿日叙任
後改隱
享保六年十一月廿日叙任
法名竟院歡喜喜廣

法名光輝院最譽慈尊一圓

女子

之切卷女

四年十一月十九日辰四位下

四年十一月廿四日辰四位下

安永三年七月十四日辰五位下

法名松岳院約譽親月光圓

女子

實定高女為之靜養女

四年十一月六日辰

女子六人

實定高女

定國室

松平内守之春幸

松平内守信通幸

大田采女正資武幸

秋葉津守修朝幸

一人早世

定綱

定良

某

万吉

早世

某

大次郎

早世

某

勝次郎

早世

定富

内席

依病菴居
自享三年十月十日年十五

定達

典松典立郎

定重

萬吉

實定改守之賴三男

越中守位下

明曆三年十一月廿七日叙任

元禄三年十一月廿四日叙任

白鹿三年九月七日叙任

享保三年十月七日年七十四

法名圓鏡院最譽定信智法

女子

早世

某

早世

女子

早世

定輝

典立郎

日向守位下

享保三年十一月廿一日叙任

明曆三年九月廿日叙任

元禄三年十一月廿四日叙任

無嗣子以三郎助定儀奉祀

法名松岳院松春月幸如

女子二人

堀田相摸守三其室

松平土佐守典常室典常奉

定儀養 定監室

定邦

兼次郎

定信

賢九

女子二人

某

元助

是

某

政七

是

忠定

吉之助

水野殿守忠佐養子

定弘

恒之丞

元禄五年八月廿七日卒

女子二人

松平上総守忠雅室
丸島佐渡守盛暢室
嫁本多若松守助芳

俊平

六郎

柳屋守俊芳養子

女子二人

一人是也
松平美作守崇信室崇信奉
嫁菅原守高宗

定利

竹次郎

宝永三年八月廿五日卒

定倫

是

享保七年卒

女子

某

女子

定恭

兼次郎
享保三年九月廿四日卒

定賢

左門

享保三年六月廿二日卒
松平上総守相良二男
越中守俊五位下
享保三年十月十日叙任
寶永三年十月廿四日叙任
明和三年七月十日卒
法皇後院院室養子
法皇後院院室養子

定儀

三郎助

越中守俊五位下
享保三年十月十日叙任
享保三年九月廿五日卒
法皇後院院室養子
法皇後院院室養子

從位下河内守
寶曆三年十月十八日叙任
寶曆三年十月十八日叙任
明和三年九月廿四日叙任
安永三年十月廿四日叙任
天明三年十月廿四日叙任
因月廿四日改元之次

某 賢之助 早世

女子

真田伊豆守幸典之至

實田安中納言宗武之男
上統父後在位下
安永三年十月十九日叙任
天明三年十月十九日叙任
因年十月十九日叙任四任下

女子三人

定信幸
二人早世

某 第五郎 早世

定房

定時

定直

鍋之助

隱岐守之長養子

女子

實肥前守之孫女
松平伊賀守忠周之至

定陳

岩玄
初定真

駿河守之在位下

延宝二年八月十八日叙任

元禄十三年九月廿六日叙任

三十六又
法名智院殿奉性安志

定道

十勝

伊豫守之在位下

後中務少輔
今松平信之至定能祖

定基

岩玄

美作守之在位下

元禄十三年十月十六日叙任

享保七年十月二日叙任

後改勘由將監
宝曆八年七月十日叙任七十

四又
法名圓院殿相見美仙

某

光之助 早世

某

大三郎 早世

女子三人

池田備前守輝房之孫輝房奉後渡邊丹後守
登嗣
松平直前守重保之至重保奉為渡邊丹後守登嗣
継室

定卿

左膳

室務少輔定道長男

筑後守之在位下

享保三年十月十六日叙任

宝曆十三年四月九日叙任

十二又
法名光院殿普賢編需照

女子

三郎室

某 典之丞 早世
女子 早世
家人 服伊織守其妻

女子 有馬左衛門允純室

定温 左膳

手水正定五位下
元文三年十一月十日叙任
宝曆二年八月廿日改任
同三年四月廿日卒于九
法名瑞雲院 墓 春山寺雄

某 岩之丞 早世

定休 吉子郎 初立年

后任下内膳七
天明三年十二月十九日叙任
天明三年十二月廿日改任内守

女子

迹山也守友隨室

定剛 吉子郎

某 金之助 早世

定規 政吉

某 常次郎 早世

女子

堀田前守之殺室

女子 服後路守安芳室

女子 早世

某 鶴次郎

某 女次郎

服部監物良久養子

女子二人

某 千之助

某 菊次郎 早世

松平 翁 附 法皇御書 享和以定年

法皇御書 翁 附 法皇御書 享和以定年
正保十一年の秋兄因幡忠憲御書ありて嗣ありて
以秋翁と安之の只正日可願信濃と小説の地縁を以
信せしは多治の信濃と信翁ありてし神皇正統の
地縁と翁ありての翁と信翁ありてありてありてあり
河内と信濃の地とありてありてありてありてありてあり
貴水元十太長年一七胡子因幡忠憲御書と信翁ありて大信より信濃の事小説
に信より可願のちち信翁と信翁ありてありてありてありてありてありてあり
忠憲御書ありてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
享和十一年十月十日 河内 翁 附 法皇御書 享和以定年

^{新田} 日し七十のを疑ひ信下り帰らむ可き事也。廿日
 十九日定貴罪ありむりし出候とて出し給ひしに
 至九列へ増つき申せ田舎をふしをてとに依り
 の不ならしむりし者あり。松山之地討てて種あり
 の地へ越れども定貴に申せ候よしをいふに
 しかば申せ候給せ候に申せ候地依業よりハ
 の事いふにその罪ありさる。其より定貴つら
 岩からむりし者十八日廿日申せ候事ありて
 申せ候て候り申せ候。新橋より小堀に定貴
 事候上りの八日廿日申せ候事あり候よし申せ候事
 叙する。又申せ候廿日廿日申せ候事あり候事ありて候事あり

あ〜〜先元文元○廿日候下の日候り候。延宝元○廿日
 廿日京路のり使えす。候事いふ。地屋院の事
 廿日西郷ありて申せ候事あり候事あり。八月廿日
 候事ありて候事あり候事あり候事あり。八月廿日
 酒後あり。十八日又申せ候事あり候事あり。定貴
 善日とて申せ候事あり候事あり。〇〇〇〇の事あり候事あり
 定貴の事あり候事あり候事あり。定貴の事あり候事あり
 廿日申せ候事あり候事あり。廿日申せ候事あり候事あり
 廿日申せ候事あり候事あり。廿日申せ候事あり候事あり
 廿日申せ候事あり候事あり。廿日申せ候事あり候事あり
 廿日申せ候事あり候事あり。廿日申せ候事あり候事あり
 廿日申せ候事あり候事あり。廿日申せ候事あり候事あり

四年以是貴の定群初可きくら〇のそほに信下り給
七月の十日二万事終のほは甘くくは後うけを
四月後信下り
のそほに信下り
秋中つとより一を卒す字子こをせとあししりは
田中中流教^{本義}中六のほ字を丸を中あき子^{本義}丸
ゆねの^{本義}百あるとくくくんとまきつせ 群^{本義}山を
三月後信下の中管を^{本義}信一^{本義}定國とよは後信下
卒せ^{本義}平の^{本義}公^{本義}ゆ^{本義}運^{本義}成^{本義}とゆり^{本義}十日^{本義}初^{本義}流^{本義}信^{本義}中
か^{本義}く^{本義}信^{本義}後^{本義}より^{本義}一^{本義}五^{本義}海^{本義}の^{本義}百^{本義}七^{本義}が^{本義}一^{本義}孫^{本義}小^{本義}十^{本義}少^{本義}長^{本義}く
常^{本義}と^{本義}わ^{本義}の^{本義}川^{本義}を^{本義}流^{本義}す^{本義}給^{本義}ふ^{本義}小^{本義}十^{本義}少^{本義}め^{本義}く^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く
ゆ^{本義}り^{本義}は^{本義}今^{本義}を^{本義}信^{本義}と^{本義}合^{本義}さ^{本義}す^{本義}と^{本義}ま^{本義}を^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く^{本義}ゆ^{本義}り^{本義}は^{本義}今^{本義}を^{本義}信^{本義}と^{本義}合^{本義}さ^{本義}す^{本義}と^{本義}ま^{本義}を^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く^{本義}

かゝる人事を合さしせしめようゆり

五年以是貴の定群初可きくら〇のそほに信下り給
七月の十日二万事終のほは甘くくは後うけを
四月後信下り
のそほに信下り
秋中つとより一を卒す字子こをせとあししりは
田中中流教^{本義}中六のほ字を丸を中あき子^{本義}丸
ゆねの^{本義}百あるとくくくんとまきつせ 群^{本義}山を
三月後信下の中管を^{本義}信一^{本義}定國とよは後信下
卒せ^{本義}平の^{本義}公^{本義}ゆ^{本義}運^{本義}成^{本義}とゆり^{本義}十日^{本義}初^{本義}流^{本義}信^{本義}中
か^{本義}く^{本義}信^{本義}後^{本義}より^{本義}一^{本義}五^{本義}海^{本義}の^{本義}百^{本義}七^{本義}が^{本義}一^{本義}孫^{本義}小^{本義}十^{本義}少^{本義}長^{本義}く
常^{本義}と^{本義}わ^{本義}の^{本義}川^{本義}を^{本義}流^{本義}す^{本義}給^{本義}ふ^{本義}小^{本義}十^{本義}少^{本義}め^{本義}く^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く^{本義}
ゆ^{本義}り^{本義}は^{本義}今^{本義}を^{本義}信^{本義}と^{本義}合^{本義}さ^{本義}す^{本義}と^{本義}ま^{本義}を^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く^{本義}ゆ^{本義}り^{本義}は^{本義}今^{本義}を^{本義}信^{本義}と^{本義}合^{本義}さ^{本義}す^{本義}と^{本義}ま^{本義}を^{本義}一^{本義}孫^{本義}代^{本義}二^{本義}少^{本義}長^{本義}く^{本義}

二十一日より隠岐と定長の子に、形りし代定除目通、
二十一日より父の遺影を御す。 御影を 弟の御定通、
可成り御影を、廿一日より、御影を 弟の御定通、
八平の御影を、二十一日より、御影を 弟の御定通、
二十一日より、御影を 弟の御定通、
二十一日より、御影を 弟の御定通、
二十一日より、御影を 弟の御定通、
二十一日より、御影を 弟の御定通、
二十一日より、御影を 弟の御定通、

平保八十八日あるを、廿一日御影、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、
御影を、二十一日より、

うやうやりのさし割是のころより一日の事
はあて定備て家治せる定休ぬはては
と日今油飾し三日叙舞して因法可は
子定別系之の旨跡のふくむ。

松平 久松

大花松原脚は是前と脇義才九の男是前脇易
才この家の名松原二家系後とすハ 須藤俊之松原
松原俊時二家は母ハ大友部トす は通原 東尼子交日母の
は才とては松原号は得也とゆい松平原二家系後と名
す は前と松原と松原と 松原俊之の今川と松原
松原のりく松原のりくして古の松原と松原と
武田松原有くも今川松原と名は松原俊之
とて今川松原有くも松原俊之の今川松原と
今川松原と名は松原俊之の今川松原と

後をせしむるにせむとていし申りける
一文のり
南無のちか
長十一年日蓮はのよ久松の城をとりて
二文のり
三文のり
四文のり
これより北の諸國を治すべしといふは其の意を
五文のり
六文のり
七文のり
我場のとくもていしすべしといふは其の意を
志すべしとて申すべしと申すべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を

くくくは
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を
しとていしすべしといふは其の意を

此の因習の部
り多し故に
珍なり
あつた

實とは申し例中世より此の如くは
より山より昔院の基に於て
しはるる事れ 十二日あるに例を
大坂の地味をうひか恩の地
乃その日 ちびくある事
りて 誠と許ししは十二日
二日原より勝原に遷す
字原より十二日原に遷す
父の遺産を譲りしは勝原より
脚久より勝原に遷す
又文より十二日原に遷す

十二日原より勝原に遷す
九日原の地味をうひか
勝原より十二日原に遷す
十二日原より勝原に遷す
十二日原より勝原に遷す



増山

藤原正利

正彌

仙福 兵部
初利順 壬元改祿

實那祖述江守皆祿長男
延和元年五月廿八日叙任
宣承元年五月廿八日叙任
法常親院院下真

女子

津守敏申守信改室

正任

大膳 内記
初正忠

對馬守位下
延和元年十月十日叙任
後改同内守
實保元年四月七日叙任
延享元年七月二日卒六
十六歲
法常坐院院下真

正元 大字

今増山龜吉正高祖

英庸 酒之丞

小出外記英傳養子

正武

改次郎

厚正正高祖位下
延和元年十月十日叙任
延享元年六月十日卒四
十二歲
法常親院院下真

女子

本多肥後守忠房正

正篤

能五郎 早世

正賢

子五郎
初正順 正存

實毛利親文奇正廣九男
對馬守正五位下
延享三年十月十八日叙任
安永五年四月廿五日卒
法相巖院淨覺寬貞

女子

實本多肥耶守忠辰女
早世

女子二人

松平内匠及宗與室離別
遠藤下野守胤親至離別
嫁平野權平長曉

政照

帶刀

正賢

子之丞 勇之丞

後五位下内守
明和年十月十八日叙任

某

勇之丞

正知

缺之進

早世

女子二人

某

女之助

早世

政雍

政之丞

甲斐守正五位下
白須屋守政堅養子

英俊

外記

小正外記持能養子

正聰

能吉

早世

定慮 藤十郎

松平大隅守定得養子

定愷

子五郎

松平半郎定胤養子

女子四人

高水修理自威妻
酒井因幡守忠救妻
増山大三郎正備妻
佐藤兵衛信頭妻

女子

増山

吾邦少捕左京正江と洋正少弼宗朝の子實ハ那波遠江
 津津他 昔編より官あり景文二十の秋正利率七嗣
 ありしは九月廿二日正江一とその室とほせ
 られ遺族の地と一正江を宗尼の地と云ふ遺行
 女は白け火を請ひ宗尼の地と云ふ遺行の列と
 して宗尼の地と云ふ遺行の列と
 二十七日正江少弼宗朝の地と一宗尼の地と云ふ遺行
 と一令中あふと一宗尼の地と云ふ遺行
 宗尼の地と云ふと一遺行の列と一宗尼の地と云ふ遺行
 宗尼の地と云ふと一遺行の列と一宗尼の地と云ふ遺行

正徳三年閏長治の如
くは
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日

正徳三年閏長治の如くは
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日
三十一日
三十二日
三十三日
三十四日
三十五日
三十六日
三十七日
三十八日
三十九日
四十日
四十一日
四十二日
四十三日
四十四日
四十五日
四十六日
四十七日
四十八日
四十九日
五十日
五十一日
五十二日
五十三日
五十四日
五十五日
五十六日
五十七日
五十八日
五十九日
六十日
六十一日
六十二日
六十三日
六十四日
六十五日
六十六日
六十七日
六十八日
六十九日
七十日
七十一日
七十二日
七十三日
七十四日
七十五日
七十六日
七十七日
七十八日
七十九日
八十日
八十一日
八十二日
八十三日
八十四日
八十五日
八十六日
八十七日
八十八日
八十九日
九十日
九十一日
九十二日
九十三日
九十四日
九十五日
九十六日
九十七日
九十八日
九十九日
一百日

正徳三年閏長治の如くは
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日
三十一日
三十二日
三十三日
三十四日
三十五日
三十六日
三十七日
三十八日
三十九日
四十日
四十一日
四十二日
四十三日
四十四日
四十五日
四十六日
四十七日
四十八日
四十九日
五十日
五十一日
五十二日
五十三日
五十四日
五十五日
五十六日
五十七日
五十八日
五十九日
六十日
六十一日
六十二日
六十三日
六十四日
六十五日
六十六日
六十七日
六十八日
六十九日
七十日
七十一日
七十二日
七十三日
七十四日
七十五日
七十六日
七十七日
七十八日
七十九日
八十日
八十一日
八十二日
八十三日
八十四日
八十五日
八十六日
八十七日
八十八日
八十九日
九十日
九十一日
九十二日
九十三日
九十四日
九十五日
九十六日
九十七日
九十八日
九十九日
一百日

半百の初受叙年一増列々々幸々〇〇〇〇
家七世

松平 鷹司

藤原信房

鷹司前関白大政大臣 二條関白晴良公三男純鷹司家
明暦二年十二月十九日薨九十六才

信尚

左大臣從一位
元和七年十月九日薨三十一歳

女子

比叺尼御所
寶鏡院

信尊

大僧正
南都大茅院門跡

寛之

大僧正
醍醐三空院門跡

本理院殿

信平

承元二年三月十日賜出家
号称左兵衛督
同四年十月廿九日授四位下
左近将權将
元禄三年七月廿八日卒
法皇性院圓淨融

女子五人

播广本愿寺主
一人早世
此法皇御所
慈受院
西本願寺主
播广本愿寺主

信正

侍从近江守授四位下
也享四年十月廿六日叙任
元禄四年七月改左兵衛督
同四年十月廿五日卒
法皇温恭院法皇绝白

女子

松平薩广守獨貴主
重教 寅吉
笛久五郎重常養子

信清

侍从兼前守授四位下
元禄六年十一月廿一日叙任
享禄九年九月十九日卒
法皇德院性山道宗

某

女子

早世

信友

侍从中務大輔授四位下
享保十一年十月十日叙任
宽保三年改左兵衛督
宝曆九年改式部大輔
同十年三月七日卒
法皇嘉琳院山了空

女子

许嫁建延纪行寺利信奉

某

信有

实纪伊大弼言直四男
送四位下侍从兼式部大輔
宝曆三年十月十日叙任
同四年十月改左兵衛督
明和元年九月改式部大輔
同四年十月改任改任都
大輔

信明

女子

某

早世

某

早世

信明

实信友男
大教及授四位下
明和五年十月十日叙任
同七年九月改式部大輔
同十年十月十日侍从
安永四年九月十九日卒
十三又
法皇德院智照院觀

信成

某

某

某

早世

女子 早世

信成 典松久松

信亮 千之丞
実信明男

実信有男
信成位下侍兼左兵衛尉
天明三年十一月十八日叙任
同四年十二月改左兵衛督

信亮 千之丞

松平鷹司

越前守左京大夫信成は信成は信成の嫡男左少将信平朝臣の
孫なり信平朝臣ハ鷹司大内卿信成之の四男なりて
お理院殿大藏院殿の
信成乃弟なり一ハ安永二十九年
亥一ハ信成より十日上のうりくもあ
けり一日ナラテ常弟と賜り信成二
可又信成信成の
の信成乃弟なり一ハ安永二十九年
卯の子に松平右衛門尉と為り信成と申し
信成の子に信成の信成と申し一ハ安永二十九年
乙卯の卯の信成と申し一ハ安永二十九年
乙卯の卯の信成と申し一ハ安永二十九年

道高
 道高
 道高
 道高
 道高

木庄 一統賜松平

藤原宗正

大郎左衛門尉院左大臣冬嗣十五代大郎家長始稱木庄家長七代大夫
 判官宗成其子左馬將軍茂滿賜諱字判官願家改右衛門尉滿宗六代
 孫左馬父宗成男寬永十六年八月廿九日卒年三歲法名威應院
 信譽入西宗利

女子

忠輝卿家人
 松平九門好字妻

道芳

初稱北路富彌
 富彌補後立位下
 兼應享三年十月廿日叙位
 寬文八年六月廿日卒年
 丑又
 法名隆雲院到譽西岸右舟

某

藤五郎
 兼應享九年朔日卒

女子二人

佐野信濃守勝室妻
 因幡守宗首室

道高

平七郎
 初道高
 元禄十年八月十六日卒四十
 六又
 法名廣應院運譽道高英達

女子二人

初修家人太官大藏輔
後重妻後嫁山科宗智全道
佐野喜兵衛公當妻

某

源之丞

寛文二年五月廿日卒十七

某

能之助

寛文六年七月廿日卒六歳

桂昌院殿

女子四人

因幡守宗清養女
松平駿守信望妻
石川久太夫重作妻
一人早世

道章

大郎吉 織部

和泉守俊五位下
元禄十二年十二月十八日叙任
享保三年八月廿三日改官内膳
享保七年七月廿日卒四十三
法名威音院法喜喜繁

道矩

久太郎 織部

大和守俊五位下
享保三年十二月十八日叙任
延享三年九月八日卒三十七

道倫

金三郎

实松平登之助信晴三男
和泉守俊五位下
延享二年十二月廿六日叙任
宝曆六年九月廿日卒三十七
法名騰嶽院合誓遊法茂

某

彦太郎

佐野信濃守勝由養子

女子二人

道矩養子
酒井三左忠清妻

某

久次郎

享保七年三月三日卒

女子

道矩養女

女子三人

一人早世
行崎道世早世
一人早世

女子二人

实松平道三女
酒井三左忠修妻
道倫妻

道堅

左膳

实松平内膳心康周三男
大和守俊五位下
宝曆六年十一月十日叙任
同十年四月廿日卒廿七
法名淨院法善澄海真龟

道信

無次郎

实松平備前守信温三男
大和守俊五位下
享保三年十一月十日叙任
天明二年十一月十九日卒
法名徳林院對善仙嚴茂隆

道揚

音次郎

实松平伊豆守信模三男
山城守俊五位下
享保三年十一月十日叙任
天明二年十一月十九日卒
法名淨院法善實秀道岸
女子 行崎道信早世

道利

佐三郎

实松平對馬守信直三男

道昌

時之助

後位下保勢守
明和年十一月廿六日叙任

宗資

平四郎次郎左衛門

因備守後位下 自享九年十一月廿九日叙任 元禄三年十一月廿五日後位下 四年十一月廿日叙任
同享年十一月廿七日叙任 法名安養寺本誓自覺円心

願敬

初名 北市郎

南都南門院住侶野勒院

某

千太郎

自享九年五月廿日年

宗成

次郎吉 初宗信

兵庫 宗芳

資信

孫太郎

日向守後位下
元禄三年十一月廿日叙任

宝永三年三月廿日賜所家跡
改美化守 後主親久
正徳三年十一月廿日年二十
七又
法名野郎院會尊雄廓然

宗長

豊五郎 兵庫 初宗春

兵庫次後位下
元禄三年十一月廿日叙任
宝永三年三月廿日賜所家跡
改内膳心
同享年十一月廿日年二十歳
法名山院院善高岳天

宗胡

三四郎

美資俊六男
正徳三年十一月廿日年八又
家絶
法名隆元院院善圓水資也

女子二人

人早也
許家島丹波守忠利早也

資順

孫太郎

実宗次男
壹岐守後位下

某 木庄三之助 是

女子四人
松平德律守孝子
一人早世
鳥井丹次守忠利子
一人早世

某 長吉

富田良斐守如仁養子早世

宗胡 三四郎

女子 早世

資訓 捨上郎 主膳
初宗 尊資 博

享保十五年五月廿日叙任
延享三年六月十日卒年
廿五
法名良相院通養庵院即淨

女子三人 共資訓養女

女子 早世

女子 加藤佐渡守明照子

某 早世

某 捨上郎 早世

資昌 豊之助 富之助

常勝 村上権藏

今村三郎五郎常福祖

資俊 辰之助 太郎三郎
太郎三郎
初宗俊

安藤守造在位下
元禄四年十一月廿日叙任
同四年十一月廿日在位下
同十五年二月廿日侍從
宝座三年三月廿日賜高名
改置多守 後伯耆守
享保三年七月廿日卒年六十四
法名深院院通養庵院即淨

女子三人

六角部前守道治具
與津能登守忠同妻
大河橋大守基賢妻

某 若之助 是

知郷 曼守

富田三膳知義養子

康童 伊左吉 大藏

牧野遠江守康道養子

实佐野信康守勝由三男
同書及在位下
享保三年二月廿日叙任後改
置後守
同四年十一月廿日侍從
同五年二月廿日在位下
宝座三年三月廿日賜高名
法名深院院通養庵院即淨

知徳 主膳

富田良斐守知郷養子

女子

松平伊守正泰子

女子三人

实知資順女
富田十郎知自妻
松平五善守忠福妻
松平備前守正伸子

宝曆二年十一月廿日叙任
同十二年二月十日卒年十九
法名真藏院通養庵院即淨

修造せしめて寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
これに徳松を右邊に置きて寺の上を以て館林と
ゆりてゆりしに館林の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
二月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
三月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
四月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
五月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
六月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
七月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
八月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
九月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十一月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十二月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て

道徳の心は、
五月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
六月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
七月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
八月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
九月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十一月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て
十二月に於て寺の敷道の形をわたりしに平十一年に於て

からしゅうのふりてはかりし 万の首領の
信よのりてふくす日下はるくすの身より成の
事りし梅呂院殿と國りしはよこの日常院殿との
城より成りしとてしるる 信よのりてふくす
本より日下とありし事 梅呂院殿
いふにしるしはるすの首領又ありし
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿

父の宗徳より万の列よりしはるすの首領
事りし梅呂院殿と國りしはよこの日常院殿との
城より成りしとてしるる 信よのりてふくす
本より日下とありし事 梅呂院殿
いふにしるしはるすの首領又ありし
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿
万の首領はるすの首領 梅呂院殿

送奉りし

百回中史や知らねば信長が御中ニ是れ大に有る秘書使に御中
其録に有る秘書使無使録を忠回御中を有る事あり何れ御中
御中
御中

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

この日帝憲院殿右殿より書付申上り候也

八十月廿七日丹後金宮講より川上
_{金山大徳寺}
_{千徳寺より川上}
 十一年迄のまゝ一十八歳迄のまゝのりつたにや
 一、向く醫務を。これをもはらへてや
 二、これの勤るをいひてしるすもあは
 人のあつては、
 三、あつては、
 中あつては、
 四、あつては、
 五、あつては、
 六、あつては、
 七、あつては、
 八、あつては、
 九、あつては、
 十、あつては、
 十一、あつては、
 十二、あつては、
 十三、あつては、
 十四、あつては、
 十五、あつては、
 十六、あつては、
 十七、あつては、
 十八、あつては、
 十九、あつては、
 二十、あつては、

此の場へ送つて、
 一、あつては、
 二、あつては、
 三、あつては、
 四、あつては、
 五、あつては、
 六、あつては、
 七、あつては、
 八、あつては、
 九、あつては、
 十、あつては、
 十一、あつては、
 十二、あつては、
 十三、あつては、
 十四、あつては、
 十五、あつては、
 十六、あつては、
 十七、あつては、
 十八、あつては、
 十九、あつては、
 二十、あつては、



一叙身一て其後きくけ 聖多業中下日
 母乃のしるるの産みけり 而前日〇日迄は
 有りてこゝし〇日迄は 百頃の内は
 下江村と云ふ所 常福のありし
 ありしなり

常福の先程村と云ふ所 常福のありし
 常福の産みけり 常福のありし

田舎に在る字長は 田舎に在る字長は
 之縁に〇〇日中身の内は 〇〇日中身の内は
 長に下ししと云ふ所 〇〇日中身の内は

〇〇日中身の内は 〇〇日中身の内は
 〇〇日中身の内は 〇〇日中身の内は
 〇〇日中身の内は 〇〇日中身の内は
 〇〇日中身の内は 〇〇日中身の内は

